阿字ヶ浦中学区

令和３年度市政懇談会記録調書

【地　　区】　　阿字ヶ浦中学区
【日　　時】　　令和 3 年 7 月 13 日㈫　午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分
【場　　所】　　阿字ヶ浦転作推進センター
【参加人数】　　12 名

目次

懇談質問 2
１　総合計画後期基本計画の産業面の進め方について 2
２　新型コロナワクチン接種の予約について 3
３　ひたちなか海浜鉄道の経営状況及び延伸計画について 5
４　ほしいも資料館の建設について 6
５　美乃浜学園のグラウンドの水はけ及び校内の街灯について 8
６　新型コロナウイルスワクチン接種について 10
市長まとめ 13

懇談質問

１　総合計画後期基本計画の産業面の進め方について

総合計画後期基本計画には福祉や子育てなど色々あるが，産業に関してはどのような形で進めていくのか伺いたい。

（市長回答）

ひたちなか市は，本当にいろいろな産業が息づくまちということで，県央・県北地区も含めて茨城県全体で見てもいろいろな産業が根付いているのではないかと思っております。農業も漁業も，それから日立製作所を中心とするものづくりの会社もそうです。この新光町の工業団地もハイテクさんが最終的に新しい工場を建てられて，今，完売御礼というような状況となっております。

さらには，観光業では，ひたちなか市は人がたくさん来るまちになっておりまして，令和元年で言うと 430 万人を超える方々がひたちなか市に来てくれています。これは茨城県の中で，隣の大洗町に次いで２番目に人が多く来てくれるまちとなっております。しかし，ひたちなか市に人がたくさん来るようになったとはいうものの，いわゆる，いろいろなところと競争できる観光地として成熟してきているかというとこれからなのだろうなという思いもあります。本来的には人が来ているうちに観光地としての魅力をもっともっと高めるような取り組みをやっていきたいという思いであったのですが，このコロナ禍でちょっとブレーキを踏まざるを得ないというような状況です。

ちょっと前後してしまいますけれども，先ほどの工業団地もおかげさまで完売をしているという状況の中で，新たに違うところから来てもらう企業さんに対して，今まとまった土地をご紹介できづらい状況にあります。あとは，ひたちなか市で今活動されていて好調な会社さんが将来を見据えて拡張していくというようなところも十分に対応ができづらくなりつつある。

こういうような状況の中で，今の新たな工業団地をどういうふうにしていくのかという部分に関して進めているところです。いろいろと土地はどこがいいのだろうかという候補を挙げてはきましたけれども，やはり高速道路が近い，港が近いとこういうことを考えると新光町の国有地が一番適しているのではないかという結論になっております。

特に，企業が誘致できる土地はほとんどが国有地となっておりますので，今，国と調整をしているような状況です。市の方でやるのか，若しくは県の方にもちょっとお願いできないかとか，あと民間の活力も使えないかとか，いろんな手法を考えながらまずは国の方から土地をそういう形で取得できる状況にあるのかどうかということを調整している状況です。国の方もいろいろと国有地を売却するにあたっては，慎重になっているところもありまして，協議の項目がちょっと増えているような状況です。今，それを一つひとつ丁寧にクリアしているというところです。そういうことをも含めて，しっかりと産業を拡充させていけるように取り組んでいるような状況です。

併せて，他の地域からも意見が出たのですけれども，人口減少と絡めてやはり高校を卒業して一旦ひたちなか市を離れる子たちが多く見られます。その後，男性は就職という形で比較的流入してくるのですが，やっぱり，女性の方々が戻ってきづらいような状況にあるということを鑑みた時に，二つのアプローチがあるかなと思っております。

一つは，高校を卒業して就職までに何かしら勉強ができるような学校が誘致できないものかという話です。それと後，水戸では女性の減少幅が減少しているけれども，比較的抑えられているのはやはり商業とか女性が就職できる場所が結構あるということもあるのか，そういった企業を誘致できないのかという話です。そういったアプローチを今模索しているところです。

いずれにしても，相手があることなのでいろいろ水面下で私も動かせていただいておりますけれども，しっかりとそういうような産業面で税収を確保しながら，次の仕掛けができるようなまちづくりというのを計画の中にも入れさせていただいております。

２　新型コロナワクチン接種の予約について

コロナワクチン接種の予約お助け隊は，どこでやっていたのか。コロナワクチン接種の予約お助け隊は，時間に行かないと予約が取れず申し込みができない。年配の方たちは足がないと行くこともできない。

私の母も接種の予約をしたが，５月 10 日は電話もつながらず，インターネットでもシステム障害があってなかなか予約が取れなかった。次の６月には母と友達の２人分の予約を取れたが，そのあと予約が取れていない方がいて３回目の時に予約をしたが，やっぱり皆さん早くてどんどん埋まってしまう状況だった。

そのあと風の噂で，敬愛小林クリニックの窓口で予約を受けつけていると聞いたので，直接電話をしたらすぐに予約が取れた。あと遊座医院さんでもやっていたと思う。他の病院はかかりつけじゃないと駄目だと断られたが，窓口でも予約ができるといった情報をもう少し他の人たちにもお知らせできたらよかったのではないか。各地域の病院の予約の空き情報が，地図で見ることができるスマホのアプリがあるとテレビでやっていて，ひたちなか市にもそういうシステムみたいなものがあれば，よかったのかなと思う。

（市長回答）

コロナワクチンのお助け隊は，ヘルス・ケア・センターでやっておりました。

改めて，５月の 10 日，14 日と最初の部分で集団接種の予約に関してトラブルがあったことをお詫び申し上げます。

いろんな状況はあるのですけれども，５月の 10 日，14 日は集団接種の申し込みの枠は確か 3,000 程度で少なかっと思います。それで６月７日で１万 3,000 まで増やせたというところで，この間の７月９日も１万ぐらい予約をさせていただいているという状況です。

ちょっと言い訳みたいになってしまうのですけれども，今回使っているファイザーとい

うワクチンは，非常に扱いづらいワクチンでまずは-75 度で保管をしなければいけない。一旦，解凍すると４，５日で打たなければいけない。しかも，一つの小瓶に６人分入っていて，解凍して抽出すると２，３時間の内に打ち切らなければいけない。国の方からは廃棄もなるだけしないでくれと，こういうような話の中で，後ろ側で配送システムだとか，その扱い方っていうのは今も非常に複雑な形になっております。

あと，初めてのワクチンなので，医師会もちょっと慎重にということで，アナフィラキシーショックも含めて，最初すごく人数を絞っていたっていうところもありまして，門をかなり狭くしていたというところがございます。

ですので，最初の１週間で打てた回数というのが，確か 1,500 回ぐらいだったと記憶しています。それが２週目，３週目になってくると 4,000 回，6,000 回で，今 7,500 から 8,000 回ぐらい，ようやくキャパシティが増えてきて，ある程度スムーズになってきました。

あと，個別接種もそれまではかかりつけ医だけだったけれども，少し余裕が出てきたから，それ以上の接種もできるようになったとか，ちょっと状況が変化していく中でお医者さんの方も少し余裕が出てきたのかなというふうに思っております。

今後，65 歳以上の方々ももちろんそうなのですけども，年齢が低くなってくると今度は多分インターネットでの申し込みが多くなったりとか，あと，風邪とか全然ひかなくてかかりつけ医なんか行ったことないなんていう方もいらっしゃるようになってくるとなると，今度は個別接種よりも集団接種の方が多くなるだろうとか，ちょっとその年齢層によって変わっていくというところも考えられますので，そのあたりを見ながら少しキャパシティを変化させていこうというふうに考えております。

また，少し慣れてきたということもありましたので，医師会との調整もありますけれども，先ほどご提案があったようなアプリとかで見た時にここは少し余裕があるよとか，そういうような情報提供もさせていただきたいという申し出はしているのですけども，やはりその１箇所に集まってしまうとワクチン接種だけではなくて，病院のいろんな診療もしているのでちょっとやめてもらいたいといういろんな声をもあります。けれども，ちょっと少し余裕も出てきたので，大丈夫なところに関してはいつでも受けられますよという情報を少し広く出していけるかどうかっていうのを医師会の方と調整をしていきたいと思っております。ちょっと刻々と変化している中で，本当により良く改善できるように努力をしていきたいと思います。ご提案ありがとうございました。

明日，医師会もありますので，そういうような話もまたしていきたいと思っています。ちなみに，敬愛小林先生のところは，だいぶ多くの人数をやっていただいておりまして，あくまで個別接種なので敬愛小林クリニックの範疇でやってもらってはいるのですけれども，敬愛さんが呼びかけて 500 人規模の個別接種ではあるけれども，ちょっと集団とも引けを取らないぐらいのキャパシティでやってもらったりとか，そういう形でそれぞれの病院でやれることを今やっていただいているということで，比較的，敬愛小林クリニックさんは多く打っていただいていると思っております。遊座先生のところもそうです。

あと，実はこれまで市政懇談会をやってきていて，女性に選ばれるまち，女性の視点をいっぱい取り入れたいというようなお話をしてきたのですけども，実は今日，女性の方でご質問いただいたのは，実はこれまでやってきて今日が初めてです。本当ありがとうございます。嬉しいです。やはり，いろいろこういうところでご発言というのは，いろんな思いがあるかもしれませんけど，やっぱりこういう形でご発言いただいてで，ぜひ女性の視点を阿字ヶ浦から市の方に届けていただければというふうに思います。本当にありがとうございます。

３　ひたちなか海浜鉄道の経営状況及び延伸計画について

海浜鉄道の延伸を計画されたのはだいぶ前になると思うが，市からの補助金がなくても単独で経営できているのか，今の経営状況について伺いたい。

それから，延伸して何年先になるかわからないが，それが利用されて本当にその世代の負の遺産という形にならないで前進する延伸鉄道になるのか，市長の見解を伺いたい。

（市長回答）

はいありがとうございます。海浜鉄道の経営状況についてですが，ちょっと今，詳しい数字を持ち合わせていないので，必要であればその詳しい数字をお渡ししようと思います。

まず，最初の問いで言うと，単独経営でどうなっているのかという話があったかと思うんですけども，海浜鉄道は国，県，市の補助金が入った上で，令和元年までは若干の黒字というような状況です。あくまでも補助金が入った状況です。

昨年度の令和２年度に関しては，やはりコロナの影響で学校が休校になったり，観光で人，お客さんが来なくなったりということで激減しております。ただ，市の方でも独自の応援金を出したり，あと国とか県とかでも持続化のいろんな補助金がありまして，そういうことも入れた上で千数百万の赤字というのが令和２年度の状況です。令和元年までは 100 万人を超えるような形で年々伸びていたんですけれども，令和２年度はそういう中で 1,300 万ぐらいの赤字というような状況になっております。補助金を入れても赤字だという形になっています。

こういうような中で，今後は基本的にコロナの状況がどのぐらい続くのかはちょっと不透明なので，そこは延伸計画の重要計画には実はあまり盛り込んでいないんですけれども，令和元年のベース，あと今後伸びていくだろう推計の中では補助金を入れながらですけれども，ある程度，需要予測として海浜公園まで伸ばした時にこのぐらいの収支がとれるであろうという，そういうような計画を出しました。その中で国の方から，もっと見積もりを厳しくするべきなのではないかとか，この要素を入れるべきなのでないかとか，いろんなやりとりがありまして，当初は私，令和元年ぐらいには延伸許可がもらえるかもしれないなというような形で思っていたんですけども，そういうような状況ではなくて，さらにそこから１年かけて国と詰めていって，ある程度，国の方でも需要予測，収支予測でいうと妥当な見積もりでしょうというような判断のもとに国の方が延伸許可を出したというように私として

は理解をしております。

今度は，延伸へのもう一つの許可の工事施行認可というのは，実際に工事をするにあたってのもう少し詳細な見積もりと状況を提出してくれとこういうような話でありますので，今それをやっているようなところです。

今後の進め方として，なかなかちょっと今の段階では難しいんですけれども，やはり状況がいろいろ変わっていく中でしっかりそのあたりも見極めながらやっていかなければいけないだろうなと思っております。国の方との協議の中では，計画では一気に海浜公園まで延伸するというような話であります。それは計画としてそういうふうになっておりますので，そこはそのとおりではあるんですけども，若干，今私が口ごもっているのは，やはりそこに状況の変化っていう変数をやはり私としては見ていかなければならないのだろうなというふうに思っています。当然，国との約束もありますのでそこも調整していかなければならないだろうなと思っています。

いずれにしても，先のことは先のことであるんですけども，今はまず国の許可として最終の許可となる許可の見通しがはっきりしておりますので，まずはそこに向かって全力でやらせていただきながら，その先の協議をやっていこうというようなことで考えております。ブレーキとアクセルの踏み方をしっかり調整しながらやっていきたいと思っています。

３−２．市，県，国の補助金の負担率はどのくらいか。

（市長回答）

市と県と国の負担率と，どのぐらいのどういうようなメニューでやっているかについては，後程，資料としてご提示させていただくということでお願いしたいと思います。

４　ほしいも資料館の建設について

観光面について，令和元年にほしいも神社，その前は鉄道神社，またロック神社を建てようと動きがある中で，神社にも観光の人も結構来ているが，やはり，ほしいもの方がメインなのかなと思う。

阿字ケ浦中学校が閉校になって，あそこに何かをという形でいたが，前に副市長と市長に話したとおり，あそこはお金を取って運営してはダメということだが，それを市の方で改正をすることができるのか。観光面の資料館とかが学校の跡地にできれば一番いいのかなと思う。それも，この前，境町の方で国の補助で有名な建築家が作り，また，ほかでも何かほしいも関連のものを作ろうとする計画がある。

ひたちなか市はそういう面で遅れている。ほしいもの生産日本一なので，やはりひたちなか市で立派な資料館みたいなものを作ってもらえれば一番いいのかなと思う。

（市長回答）

はい，ありがとうございます。

ほしいも神社に関しても私も参拝させていただきましたけど，非常に観光のスポットとしても人気になっているということで，本当に関係者の皆様のご努力に敬意を表したいというふうに思います。

学校の跡地の話に関しては，これまでもいろいろと意見交換をさせていただいているという状況もありますので，これまでとほとんど同様の回答しか今のところできないというところでありますけれども，まず阿字ケ浦中学校を地域としては，地域の活動として残していきたいというご意向を踏まえて，今担当課がそれぞれ状況を整えているような形かというふうに思っております。

さらにそこからの利用というような話でありますけども，いろんな都市計画の縛りというのはもちろん絶対的なものではありませんので，変えればもちろんできますけども，ただ，なぜそこがそういうような地域となっているのかっていうやっぱり状況もありますので，簡単に変えていくということはなかなかできづらい状況なのかなというふうに思っています。

令和元年の市政懇談会の中でやりとりをさせていただいているように，例えば，まずは地域で使っていただいて地域と同居ができるような形で，例えば，地域も受け入れられる民間のそういった団体が入ってきて，運営主体がはっきりした上で地域も合意をした上でそこを変えていくのはどうだと，こういうような話になってくればいろいろとまたやり方があってくるのかなと思っています。

しかしながら，今ご提案があったようなほしいもミュージアムであったりとか，ほしいもであったりとか，そういうような商売の方にひたちなか市が運営主体として入っていくというのは，現状，私の方としてはちょっと後ろ向きのところがございます。というのは，やはり餅は餅屋でありまして，私はもともと民間出身ですので，行政としてのやっぱり役割と商売としての頭の働かせ方はやっぱり違うところがあるというふうに私は認識しております。

ですので，商売の方に，例えばこの地域の活性化に繋がる商売はそこに誘致していくというところで，地元の方々も納得できるような使い方を一緒にちゃんとこうできるような，そういうようなところが運営主体としてなってくれば，これ話はまだ進むだろうなというふうに思っております。

今お話したのは私の今，これは前もそういったお話をさせていただいたところもありますので，また違ったその要素という，今までこう話しているのとは違った何かこう要素が出てくればまたそのことに関しては協議をしていきたいなと思っておりますけれども，現時点においては，そういったちょっと新しいところっていうのは少し見受けられないところもありますので，現状のまずは方向をお示しさせていただきます。

あと，境町の方に行かれたと，ちょうどあの時に境町長とお昼にお話をして，少しコミュ

ニケーションをとらせていただきましたけども，ふるさと納税をすごく上手く活用しているのが境町ですよね。

ひたちなか市も遅ればせながら，ずっとふるさと納税をやってきてなかったんですけれども，昨年の 10 月から本格的にひたちなか市もそこに参入をしていったというところで，今，品揃えを増やしているところです。境町のいいところもちょっと真似しながら，我々もいろんな海の幸，山の幸，いろんなアイテムがありますので，ふるさと納税を活用しながら，寄付金を少し次の投資に使えるような状況にしていきたいというふうに思っております。

そうなってくると，またこれがまた新たな状況ということになってくるのかなと思いますので，境町から学べることは我々の方でも学ばせていただこうというふうに思っています。ありがとうございます。

４－２　再質問（ほしいも資料館の建設について）

９月に漁業域旅行会で，東京からお客さんが海浜鉄道で来て，いろんなほしいものトークショーをしながら，阿字ヶ浦駅まできて，講師には鈴木ヨシオさんが来るが，そのあと体験するところがない。そういう体験できるところがあったらいいなと考えている。一応，10 月には，いも掘りとコキアという形で考えている。ただ，12 月の体験どころがなく，やはりゆくゆくはそういう体験どころを作るようなことがあったらいいなと思い意見をした。

（市長回答）

はいありがとうございます。

今回，阿字ヶ浦を中心とした阿字ヶ浦の魅力を創出する旅行の観光の提案ということで，国の方の補助金も採択されまして，かなり大きな金額を今回，市の方も関わらせていただきながら観光協会，阿字ヶ浦の皆さん方とこれから作っていくというようなこととして，私も認識しております。

市の職員も今回久しぶりにいろんな新たな取り組みということで，情熱を燃やしておりますので，またいろいろと提案をさせていただこうと思います。ありがとうございます。

５　美乃浜学園のグラウンドの水はけ及び校内の街灯について

美乃浜学園の第１回のコミュニティ・スクールに参加をして，防災拠点としての美乃浜学園ということで大変良い学校ができたと思っているが，この間の雷雨により翌日グラウンドがすごい水たまりになっていた。確認したら，水をすぐ排出せずに徐々に排出するとホームページに載っていたので，それもいいのかなと思うが，津波などの避難場所にも指定してあるので，そういう時にグラウンドを使うこともあるのではないかなと思う。車を入れたり，人が避難したら，そこに入れたりするかもしれないし，雨が降った時にあんな水たまりになったら，防災拠点として機能するのかどうか少し不安だったので，今後，見直しをするのかどうか伺いたい。

また，夜の体育館を何回か使用したり，学校の方にも行っているが，夜は体育館の前や駐車場がすごく真っ暗になってしまう。昼間しか子供はいないのでいいと思うが，もし避難所として美乃浜学園を使うならば，とても暗いなってイメージがあった。それについてもこの間のコミュニティ・スクールで話はしたが，作ってからの見直しが必要なのかなということを感じた。

（市長回答）

体育館の周りの街灯とかその状況については，確認をして必要であれば灯を足したりとかっていうのは，考えられるのかなというふうに思っています。

あとグランドの水なんですけれども，開発するにあたって水をどこで受けるのかっていうものをしっかりと確保しなければいけないというところで，グラウンドで水を１回貯留するという形で開発許可を取っているというような状況です。その中で，美乃浜学園のグラウンドはかなり広いような中で，真ん中が一番高くなって四方がこう低くなっているので周りに輪っかのように水が出てくると，こういうような状況です。これがどのぐらいではけていくのかというのは，１回その想定はあるんですけれども，ちょっとここ何日間かでしっかり確認するようにというふうに担当課の方には私の方で指示を出させていただいております。概ね半日ぐらいなのではないかというふうに見積もっているところです。

そうした中で，美乃浜学園は貯留をするグラウンドなんですけれども，実は水がはけたらグチャグチャにならない土を使っております。ですので，真ん中から水がはけていったら，真ん中は少し乾けば比較的すぐに使えるような状況でありますので，どこからか真ん中のグラウンドのところに行けるような道筋を作るべきなのかどうかということを今検討していると報告を受けております。

いずれにしても，水を外にこうジャージャー流すとそれはそれで道路冠水とかになってしまうので，一旦受けるというその考え方は踏襲させていただきたいんですけれども，広いグランドの真ん中をどういうふうに使いやすくするのかという工夫と，それからどのぐらいの雨が降った時にどのぐらいではけていくのかっていうのはちょっと知見を重ねないといけないってところもありますので，その辺りしっかり見積もって学校とその情報を共有していきたいと思っております。

あわせて校舎棟のところにサブグラウンドというか，子供たちのグラウンドがあります。これは多分，阿字ヶ浦小学校と同じぐらいの広さのグラウンドがあるんじゃないかというところもありますので，その中庭とサブグラウンド，こちらの方は水はけがいいですので，そっちの方を使ってある程度いろんなことができるというスペースはかなり広いスペースですので確保ができているというふうに思っております。

あと，何かあった時に避難して，例えば車とか来た時にどこに置けるのかというところでございますけども，美乃浜学園のグラウンドに置くというのはなかなかちょっと難しいのかなと思っております。そういったところで，ちょっと近くではありますけれども，平磯中

学校とか，そういったところも活用しながら，車での避難の場合のキャパを確保していくとか，そういったことが考えられるのかなというふうに思っております。

津波でそのまま，グラウンドがっていうことではない話だと思いますので，たまたまそういうふうに災害と重なった時にどうなのかというところだと思いますので，代替案を少し考えさせていただこうと思います。

６　新型コロナウイルスワクチン接種について

コロナウイルスワクチン接種について，ひたちなか市は水戸市や那珂市などと比べると，ちょっと進行が遅れているイメージがあったが，ワクチンの影響なのかなと思う。

水戸では，私より若い世代にもう接種券が届いたという話を聞いたので，その辺の動きがひたちなか市はちょっと遅れているのかなと感じた。

（市長回答）

コロナのワクチンの接種状況ですけども，これは，水戸は水戸の難しさと水戸は水戸での有利な部分があります。ですので，我々もあんまり競争という感じでは考えてはいないんですけれども，現実的にどういうふうにひたちなか市はコントロール，結果からすると先ほど言ったように，既に１回目接種している方々が 77.8%程度いっていますので決して遅れておりません。

ただ，接種券がなぜ届かないのかというところの考え方でいうと，水戸は逆に接種券をどんどん送っておりますけれども，予約がまだできない状況とか，要は，接種券はあるけれども予約ができない状況というのを市民の皆さん方に許容してもらっているわけです。ただ，どうしてそれを水戸がやっているかというとこれは想像になりますけれども，県の方と水戸の方で大規模接種なんかもやっているので，そちらの方で吸収ができるのではないかということもあって，多分そういうような方策をとっているんじゃないかなというふうに思います。当初あと例えば，日立市なんかは集団接種はやらないで個別接種でやるという話でやっておりましたけども，個別接種それぞれがパンクして，途中から集団の方もやり始めると，こういうような話もある中で進んでいるのではないかと思います。

これも多分，医師会の協力とかの問題が最初あったのではないかなというふうに推測をします。何が言いたいかというと，それぞれの町の人数の規模，お医者さんの数，場所，それから，何を許容してもらって何を先に進められるのか，そのいろんな状況において，どのまちも進めているということでやっているということをまず一つご理解いただければなというふうに思っています。

ひたちなか市においては，その大規模接種会場が県のような形で開かれていませんけれども，集団接種とその個別接種である程度今 65 歳の時にちょっとキャパオーバーになったところからも考えて，５歳刻みの中でスムーズに流していくことが結果としてその後もスムーズに流れていくだろうということで，お手元にワクチンの接種券はまだ来ないけれど

も，実際はかなりスムーズに打てているという状況がつくれているということをまずご紹介をさせていただこうというふうに思っています。

今日時点で１回目の 65 歳以上の方々の接種率は，60 数％ぐらいが県の平均だというふうになっておりますので，それよりもひたちなか市は多い。パーセンテージですから，例えば那珂市なんかは全人口で例えば５万数千とかっていう話で言うと，ひたちなか市の高齢者の数とほぼ同じぐらいになってしまうとか，全体的な人数をどういうふうにさばいていくのかは，やっぱりそのそれぞれの町の規模にあわせて変わってくるというような状況もありますので，いずれにしても一刻も早く必要な人にスムーズにワクチンが接種できるように努力しておりますので，ご理解をいただきたいなというふうに思っています。３万回，月に打てているという状況でありますので，ワクチンがこれまでどおり，きちんと来るということを前提にすると，８，９，10，11 と 11 月までの４か月でいうと，12 万回。要は２回接種で６万人に対して，２回接種が 11 月までには終わるような，ひたちなか市は一応全体のキャパとしてあります。

これにプラスして職域接種が始まっています。1,000 人以上の事業所で，国と調整をして，ワクチン接種をしています。これが数社で始まっておりますので，これがまたプラスオンされていくということでありますので，ある程度，国が目標としている秋口ぐらいにひたちなか市の希望する全市民７割程度はワクチンさえ来ればできるようなたてつけができているというような状況でございます。

いろいろとご心配をおかけしておりますけれども，決して著しく遅くなっているわけでもなく，スムーズにやれておりますので，そのように周りの方にも伝えていただければと思います。

美乃浜学園の開校式典に出させていただいて，校歌を作詞作曲したマシコタツロウさんが指揮をして，生徒たちに歌ってもらって初めてこの曲が完成するということで，歌っているシーンにとてもジーンとききました。さすがヒットメーカーが作った曲であって，皆さんどういうふうにお感じになられているかわからないですけど，少なくとも私は１回聞いただけですぐ覚えてしまいました。新たな歴史が，美乃浜学園とともにスタートしたというような気持ちがあの時，湧いてきたわけでございます。

先ほど，会長の方からも阿字ヶ浦の小学校，中学校という名前が青年の主張大会の中でなくなってちょっと寂しいというご挨拶もあって，それも非常によくわかるところでございます。美乃浜学園はまさにスタートしたばかりで，先ほどの水の問題もそうですし，あと周辺の街灯の問題とか，あと今後，通学の問題とかいろいろ出てくるというふうには思っておりますけれども，ひとつ一つ，保護者の皆様方，地域の皆様方としっかり連携をしながら学校の方からも情報提供を皆さんにしてもらいながら，改善できるところは改善していきたいなというふうに思っています。

この美乃浜学園だけではないんですけれども，今 IT 化の流れの中で学校から保護者に対して，いろんなご連絡がこれまで連絡ノートとかを通じてのやりとりであったりとか，プリ

ントを配布してのやりとりだったりとか，そういう形でありましたけども，７月からこれもちょっと変わってきます。ほとんどがオンラインでのやりとりになり，美乃浜は９月からになっていると思います。

（教育長回答）

ICT 化につきましては，様々なところで大きく変わっております。

市長からお話があったように，例えば学校アプリ，今までは欠席届とかそういうものは電話でやりとりをしていました。なかなか電話が通じないとか，皆さんからお電話をいただく時間というのは大体同じぐらいの時間帯で短い時間なので，繋がらなくてそのままになってしまったとか，電話したのにかからなかったから時間をおいていたら学校からどうしたんですかと電話があったとか，いろいろご不便をかけていたのですけれども，学校アプリを今年導入していただきましたので，オンラインでスマホから今日は欠席しますと保護者の方から学校に連絡をすることができます。必要に応じて学校からも保護者の方に明日の用意はこうですよとか，やりとりができるようになるということがありまして，特に防災の時とか緊急の時なんかも一斉にひとり一人のアプリが保護者と直接やりとりができるというものを今年から導入させていただきました。そのお試し，実際に届くかどうかっていう確認事項は多分やったと思うのですが，そのあと夏休みにもうちょっと調整をして美乃浜は９月になっていたと思います。非常に地域も多く，確認事項がいっぱいあったみたいなので，今まで例年どおりに添付コピーっていう形ができないので，一つひとつ手作業でやるのにちょっと時間をくださいということで美乃浜は９月になっているかと思います。

ICT につきましても，これまでは何でも学校に頼めばやってくれるということで気軽に学校に頼んで，非常に先生たちの仕事が増えて，先生たちがその作業に時間を非常にかけてしまうということで，そういうものを今精査しているのと，あと，先生たちの仕事についても ICT 化を進めています。

例えば出席をとっていたものが，学校アプリが出席になり，それが保健日誌とか，通知表とか，それから指導要録っていう記録とか，すべてのものに一括で行くようになったり，それが蓄積されて今度分析されて，例えば保健の日誌だと大体何月ぐらいにはこういう事故が多いとか，こういう怪我が多いとか，こういう病気が多いとか，そういうものがデータ化されてストックすることができるということ。

それから ICT につきましては，子供たちの ICT，今月の２日と９日のどちらかに子供たちがタブレットを持ち帰っております。どんなものを使っているかっていうのを保護者に見ていただいているのですけれども，その中には AI ドリルっていうのが入っています。AI ドリルっていうのはどういうものかっていうと，先ほど市長からもお話がありましたように，今までは漢字ドリルみたいなものは今まで書いていました。中には作業みたいに縦縦横横って書いていましたが，それが今度は AI が考えてその子に合った問題を作ってくれます。

例えば，算数だとここのところが苦手だっていうと，次から次へとドリルの問題が出てく

るのですが，それが当たるとピンポンピンポンとかブーとかってなるんですね。その子の特色に合わせて，こういう傾向の問題が苦手なお子さんにはしつこく出てきます。この間，ある学校に行った時に，校長先生がこのお子さんは漢字がとっても苦手で，漢字先生っていうドリルそのAIのドリルをやっていたんですが，非常に厳しいと。普通だったらすぐパパって先生がマルつけてくれるのが，ハネが駄目だとかっていうとブーとかってなる。でもそれが先生に評価されているんじゃなくて，自分との戦いなので何かゲーム感覚で一生懸命やっていたら，ずっと0点ばっかりだった子がこの間60点とって，今日80点だったんですよっていう話がありました。それから，特別支援のお子さん特に学習障害を持っているお子さんとか，そういうお子さんにとっては非常に便利で，例えば，黒板をこちらに移すっていうのが苦手なお子さんがいます。だけど，やり方をちゃんと解決するすべを教えてあげれば能力がないわけではないので，能力がどんどん開発してきます。そういうお子さんなんかは，例えば黒板をカシャて撮ってここに置いてそれ写してみるとか，そういうことができます。

そういう様々な使い方を今トライアンドエラーでやってみて，これは駄目だなと思うところは改善するという形をとっていきます。今年の夏休みは，先ほどのトライアンドエラーですけれども，いろんなことがあるかと思います。壊しちゃったとか，壊して困っちゃうんですけれども，でもそれを恐れているとなかなか自分のものにはならないので，すべての小中学校の子供たちに夏休みに持って帰らせます。その中の宿題をやってもらいます。中には，オンラインホームルームができれば，ホームルームを1回はやっていきたいなと思っております。そういうのは，日常的に子供たちも先生たちもできるようになれば，例えば災害の時とかいろんなところで普通に使えるようになれるといいなと思っております。

今年の夏はチャレンジ，そのために，LANがないところ要保護や重要保護のお子さんには貸し出しをしますし，今希望をとっております。それ以外のご家庭でも，もし，LANが整備されてなくて，どうしても必要な人は申し出てくださいということで学校を中心に今，調査をしているところです。

ゆくゆくは，多分こういうオンラインっていうのは，どの家庭でも普通に使える時代がもう目の前に来ておりますので，できれば環境を整えていただくことはお願いできるといいなっていうふうに思っております。

市長まとめ

今日，それぞれの担当部署の部長はまいっておりませんが，市役所が開いているうちはいつでもウェルカムでございますので，阿字ヶ浦の様々な施策に関してお問い合わせをしていただければと思っております。教育長の方からもトライアンドエラーという話があり，いろいろと不透明な状況はありますけれども，その中で次の時代を見据えて，ひたちなか市としても様々な取り組みをやっていこうという決意で臨んでおります。

また，ワクチン接種も走りながら考えているというのも実情でございます。ひるむことなく改善すべきことは改善しながら，この時代のスピードにある程度寄り添いながら進んで

いきたいと思っています。

そして，来るべきウィズコロナ時代とかアフターコロナ時代という言葉がありますけれども，ひたちなか市，さらにこの阿字ヶ浦地区はいろんな意味で発展していく要素があると考えております。皆さんのお知恵もいただきながら進めていきたいと思っておりますので，どうぞよろしくお願いいたします。

本日は，長時間にわたりまして懇談会ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。どうもお疲れ様でした。